



プリザンターを子会社から親会社、さらに顧客へと展開。年間 900 時間の削減を実現し、業務のミスや非効率も解消

株式会社シーイーシーカスタマサービス

取締役 木根 博治 様 (右)
業務支援事業部 事業部長
兼 コーポレート IT サービス部 部長 田中一生 様 (中央)
事業推進部 主査 藤松 哲也 様 (左)



無くてはならない日常の道具として社内で定着



スモールスタートで成果を残して全社に展開



作業負担の軽減に大きく貢献

親会社に加え、中堅中小企業に新たな IT サービスを模索。試しにプリザンターを導入し、業務の飛躍的な改善を実現

シーイーシーカスタマサービス (以下、CCS と略す) は、独立系 ICT 企業のシーイーシー (以下、CEC と略す) が 100% 出資するグループ子会社であり、元はオンサイト運用系業務を中心に事業展開していたグループ企業にサポート系 SE を集約し、更に CEC の情報システム開発保守部門が加わった会社です。

CCS が着目したのが、様々な管理に関する業務アプリを素早く簡単に作成できる、オープンソースの Web データベース「プリザンター」です。親会社 CEC の社内システムを担当する、CCS 業務支援事業部 事業部長兼コーポレート IT サービス部 部長の田中一生氏は、当初の経緯をこう話します。「CEC の社員

から寄せられるシステムに関する質問や不具合などの問い合わせ管理は Excel で行っていましたが、累計 2000 件を超え、管理が煩雑な状況でした。そこで、私が脱 Excel のため、ネット上で探し当てたプリザンターを使って Web データベースの構築を推進。管理側は、迅速かつ手軽に構築でき、その後の運用も格段に楽になり、ユーザー側も自身の要望に CCS がどう対応したか簡単に確認できるようになり、状況は飛躍的に改善されました。成果が得られたことから、このプリザンターは他の管理系業務でも使えると判断し、活用に本格的に力を入れ始めたのです。」

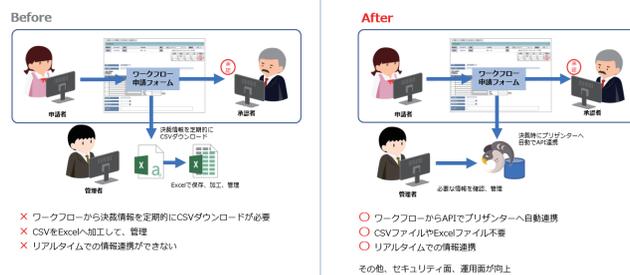
Excel をプリザンターに切り替え、無駄やミスが解消。約 60 業務で導入し、年間 900 時間削減の効率化を達成

CCS の様々な業務に関して、管理を Excel からプリザンターに移行していくことです。例えば、続々と立ち上がるプロジェクトの採番管理を、プリザンターで行うことに変更。従来、社内ネットワークで Excel によって管理していた時は、動作が重く遅い上に、案件の重複記載、変更点の更新漏れなどミスが発生して、管理するマネージャーや購買、経理担当が混乱し、何度も確認や修正依頼のやり取りが生じるなど、問題が起こっていました。

「それを、プリザンターに切り替えると、動作は極めて軽くスピーディー。記入のしやすさ、一覧性、検索性の高さから、重複や記載漏れが一切なくなり、現場と経理の無駄なやり取りが解消したのです。ボタン 1 つで既存案件の内容を複製し、似たような案件、継続案件の登録を簡便にするなどカスタマイズも施し、作業負担の軽減に大きく貢献することができました」(田中氏)。

その他、営業の商談状況の全てをプリザンターに一元化して一覧できるようにするなど、多くの業務管理を積極的に移行。その数は、実に約 60 業務に及びます。結果、年間約 180 件発生する資格申請では、1 件当たり 20 分、年間 60 時間の作業時間の削減が見込まれ、交際費・会議費は年間約 150 件の申請がある中、1 件 10 分、年間約 25 時間の削減が想定されます。60 業務それぞれにこうした効果があり、全てを足し合わせれば年間 900 時間もの効率化が達成されることとなります。「但しそうした数字以上に、社員、マネージャーの負荷の軽減、業務の円滑化はあらゆる場面で現れていると考えています。CCS では、SE 以外の管理部門の社員にも手軽に使えるプリザンターがもはや、無くてはならない日常の道具として定着してきています」(木根氏)。

削減が見込まれ、交際費・会議費は年間約 150 件の申請がある中、1 件 10 分、年間約 25 時間の削減が想定されます。60 業務それぞれにこうした効果があり、全てを足し合わせれば年間 900 時間もの効率化が達成されることとなります。「但しそうした数字以上に、社員、マネージャーの負荷の軽減、業務の円滑化はあらゆる場面で現れていると考えています。CCS では、SE 以外の管理部門の社員にも手軽に使えるプリザンターがもはや、無くてはならない日常の道具として定着してきています」(木根氏)。



プリザンター導入前後のワークフロー比較。リアルタイムでの情報連携が可能になり、セキュリティ面や運用面も向上

親会社のワークフローや資産管理と連携し、高評価。さらに顧客への導入も果たし、事業のスケールが加速

CCSは自社での成果を得て、親会社のCECに対して、さらなるプリザンターの展開を推進しています。その一つがCECで業務の電子申請・承認を行う際に使用するワークフローシステムとの連携です。元々、同システムで承認された申請書は、CSVファイルでExcelに出力して管理していましたが、プリザンターとシステムを連携させることで、今ではデータが自動的にプリザンターに保存され、運用できるようになっています。「CECでは、マネージャーがデータにアクセスし、承認後の申請書を部分的に変更できるようになるなど、利便性も高まっています」と田中氏は話します。

加えて、資産管理システムとプリザンターの連携も実施。「同システムでは資産の内容や価格などの購入履歴データのみで、耐用年数や買い替えが必要な時期など、将来のデータは記載できません。そこで、プリザンターと連携し、そういった将来のデータも含めて資産のライフサイクルを管理できるように進化させたのです。例えば、耐用年数が迫っている資産があれば、総務担当者にアラートが届くようになっており、担当者は漏れなく予算取りすることが可能になります。買い替え時期なのに見逃してしまい、予算に反映できなかったというミスを防ぐことにつながっています」（田中氏）。親会社のCECでは、導



会議費申請では詳細を決められた項目ごとに入力。記載漏れがなく、残高も確認できるため予算オーバーのミスがない

入の成果に対して評価し、「他の業務もプリザンターに移行したい」というニーズが高まっています。CCSでは自社で積極的に使って、獲得した知見やノウハウを武器に、親会社、さらに顧客にもビジネスを広げていくというプリザンターの有効なスケールの方法を自ら編み出し、事業の成功に向けて、取り組みを強化しているのです。

業界・業種を問わず、お客様業務に合ったカスタマイズを提案。プリザンター活用を通して快適に業務効率化を実現することでお客様ビジネスへも貢献

CCSは、今後のプリザンター事業の拡大を視野に、3つのポイントにも注力しています。まずは、プリザンターを使った汎用業務アプリの開発です。例えば、プリザンターの登録データがExcelの定型書類に自動転記され、紙で印刷できる「プリザンター to Excel」。こうしたアプリの開発は数件が同時に進行中で、複数社へ横展開することによって、事業のさらなる広がりが見込めます。

次が、プリザンターの効果的な使い方を啓蒙していくセミナーの開催や、ブログの発信です。田中氏が自ら手掛けており、セミナーは不定期に年間複数回開き、プロ

グはほぼ週1回のハイペースで更新しています。

「プリザンターの良い点は、無料で使い始められるオープンソースであること。中小企業はもとより、大企業が部門や部署限定で使うなど、予算がない時でも導入しやすいのが利点です。最初はCCSのようにスモールスタートで使ってみて、成果を残してから全社的に広げたり、困り事が発生した時のために予算を取りサポートを付けて展開するなど順を追って進めていくと、より円滑な導入が可能になると考えています」（田中氏）。

CCS 株式会社 シーイーシーカスタマサービス

URL: <https://www.ceccs.co.jp/>

所在地: 神奈川県座間市東原5-1-11 さがみ野システムラボラトリ
 設立: 2000年8月1日(2012年4月1日※新事業体制で営業開始)
 資本金: 5,000万円

プリザンターの導入から教育、スクリプト開発、外部連携、サポートなどの対応をしております。
 グループ会社内の基幹システムの開発保守実績をベースにグループ会社内でもプリザンターの導入・運用も実施しており、お客様への導入や運用のご提案・ご支援をいたします。ブログでの技術説明等も行っておりますので、ぜひご覧ください。

導入事例全文は Web で! <https://pleasanter.org/>



株式会社インプリム

〒165-0026 東京都中野区新井1-12-12 モデリアカラーズ中野2F
 Tel: 03-5942-6640 Fax: 03-5942-6650
<https://implem.co.jp>